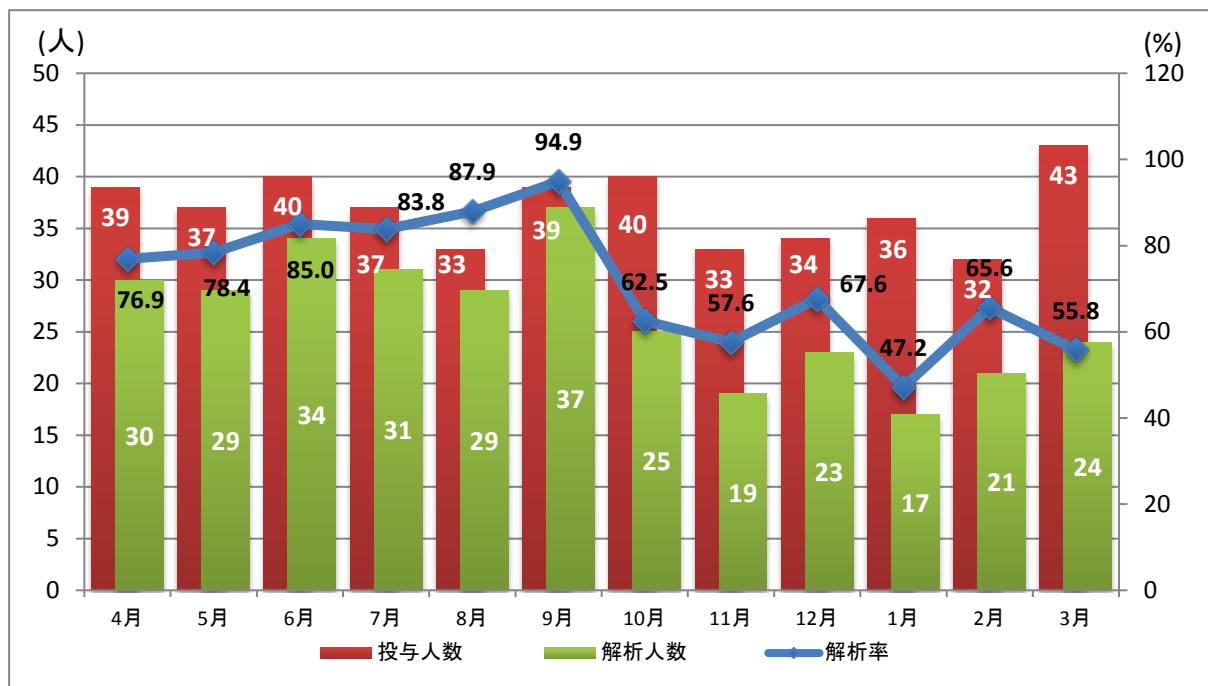


## 1 9 . VCM ・ TEIC ・ ABK 3 剤血中濃度測定解析率



抗 MRSA 薬であるバンコマイシン、テイコプラニン、アルベカシンの 3 剤について血中濃度測定を実施し、TDM 解析率を示したグラフである。投与期間が 3 日以内の患者は除外している。血中濃度測定は、有効血中濃度と中毒域の幅が狭く、副作用の強い薬剤に対して実施されている。副作用防止のために、血中濃度測定を行うことで、抗 MRSA 薬の有効性、安全性を評価する事が可能である。また特定薬剤治療管理料の算定も可能であり、本来であれば 3 日以上連続して投与されている患者に対し、100%での実施が望まれる。しかし、平成 28 年度は約 72%の実施状況であり不十分と言える。ICT 及び薬剤部が積極的な指導を行っているが、十分に浸透していない。適切な抗菌薬の投与により、患者の回復が促され、また耐性菌の発生も抑えられるため、更なる TDM 遵守率の上昇が望まれる。

2015 年 5 月の世界保健総会で、薬剤耐性 (AMR) に関するグローバル・アクション・プランが採択され、日本は 2 年以内に薬剤耐性に関する国家行動計画を策定することを求められている。これを受けて当院でも薬剤耐性対策に関する包括的な取組について議論するとともに、各診療科との調整を図り改善できるように計画推進していく。

データ提供：医療の質・安全対策部 感染対策室